

◎第8回理事会(38.1.24) 出席者: 藤井, 岡本正副会長, ほか理事9名。議事: 1) 論文集について。2) 異形鉄筋の試験受託について。3) 第7回材料試験連合講演会および運営委員について。4) 第2回宅地造成技術講習会の共催について。5) 国際会議出席者の推せん。6) 委員会委員および幹事委嘱の件。

- a. コンクリート構造急速施工委員会
委員追加
波木 守氏(小野田セメントKK)
- b. 水理公式集改訂委員会委員(河川部会)追加
高棟塚馬氏(京都大学防災研究所)
角屋 睦氏(同)
- c. 本州四国連絡橋技術調査委員会
会 上 部 構 造 に 関 す る 専 門 部 会 耐 風 設 計 小 委 員 会 委 員 30 名
- d. 耐震工学委員会委員の交代
山本委員の後任として
倉田 進氏(運輸省港湾技術研究所)

◎各種委員会

- (1) 第2回コンクリート構造急速施工委員会(37.12.19) 出席者: 国分委員長, 杉木主査, ほか委員16名。議事: 1) 前会議事録の確認。2) 委員追加について。3) 委員会提出資料の検討。4) その他。
- (2) 本州, 四国連絡橋技術調査委員会基礎に関する専門部会幹事会(37.12.19) 出席者: 広田部会長, ほか幹事9名。議事: 1) 幹事会経過説明。2) 今後の方針について。3) その他。
- (3) トンネル設計小委員会(37.12.20) 出席者: 坂本主査ほか, 委員6名。議事: 1) トンネル幅と支保工重量について。2) トンネル幅と支保工の断面係数について。3) 次会小委員会について。
- (4) 第8回会誌編集委員会(37.12.21) 出席者: 奥村編集担当理事, 八十島, 堺正副委員長, ほか委員20名, 関係者3名。議事: 1) 原稿投稿状況。2) 審査原稿報告。3) 原稿依頼状況。4) 48巻3号編集について。5) 土木賞候補論文の推薦について。6) 展望記事の拡充方法。7) その他。
- (5) 本州, 四国連絡橋技術調査委員会耐風設計小委員会打合せ(37.12.22) 出席者: 平井委員長, ほか委員22名。議事: 1) 小委員会内規について。2) 調査計画。3) 小委員会構成について。
- (6) 地震工学国内シンポジウム運営委員会, 討論編集打合せ(37.12.24) 出席者:

: 委員4名。議事: 地震工学国内シンポジウム編集について打合せを行なった。

(7) プレストレストコンクリート委員会主査幹事会(37.12.24) 出席者: 国分委員長, ほか委員・幹事9名。議事: 1) 土木用接着剤シンポジウム開催について。2) 各分科会活動状況, 研究成果の会誌への中間報告。4) その他。

(8) 衛生工学委員会小委員会(37.12.26) 出席者: 広瀬委員長, ほか委員6名。議事: 1) 衛生工学の集いについて。2) 次期国際会議について。3) その他。

(9) 地震工学国内シンポジウム運営委員会(37.12.26) 出席者: 岡本委員長, 那須土木学会耐震工学委員長, ほか委員3名, 幹事7名。議事: 1) 地震工学国内シンポジウム(1962)一般討論編集について。2) 同シンポジウム決算報告。3) その他。

(10) コンクリート委員会打合せ(37.12.27) 出席者: 国分委員長, ほか幹事10名。議事: 1) コンクリート用接着剤に関するシンポジウムについて。2) PC委員会報告について。3) 事故調査表の配布先について。4) その他。

◎その他

- (1) 第15回関東地区学生諸君のための映画会 日時: 38.1.19; 14.30~17.00 参加者: 45名。上映映画: 佐久間ダム(1)(2)(3)。
- (2) 東海道新幹線試乗会(38.1.22) 土木学会会員とその家族407人を乗せた

鴨宮駅前に集合して車庫に向う



家族を混えて車内で談笑する一行



4両編成の試運転車は定刻2時に快調に鴨宮車庫前の仮ホームをスタートした。車内ではマイクで試験車両の一般説明, 今までの試験経過, 当日行なわれるATC(自動列車制御装置)試験および瞬時停電がATCにおよぼす試験についての解説がある。ゆったりしたシートに腰をおろし雑談しているうちに電車はスピードを増し, マイクがそのつど速度を知らせる。列車は60km/hから80km/h, 100km/h……と速度をぐんぐん増す。トンネルに入るとキーンと耳が鳴る。別の目ばりのしてある車両に乗りかえて見るとそれほど耳鳴りも感じられなく快適である。速度計に目を移すと180km/hから200km/hと上り, ついに208km/hを指しているのでも思わず手に汗をにぎる。この間たえずいろいろな方面から試験が行なわれていることをふと思いかへ鉄道技術陣の苦心に感謝する。夫人や子供を混えた車内ではこのようなスピードが出せるのも基礎工事がしっかりしているからなのだ, 等と土木工事がいかに重要なものであるかをPRしている声がかかれる。窓外はスピードのわりには景色の流れもそれほど感じられない。208km/hを出した電車は次第にスピードを落しながら相模川橋梁を渡り目的地に着き停車, この間わずか15分程度であったが, 乗心地は満点。帰りも同じようなテストがくり返され, 2時45分車庫につき1回目の試乗を終る。国鉄のご好意により3時から第2回目の試乗を行ない第1回と同じようなテストがくり返された。

終りに本試乗会に当りいろいろ御高配を賜った国鉄新幹線総局 河野設計課長, 石川工事第一課長, 平岡, 長田, 小林の各技師, 田中モデル線区長, 立松, 伊藤主任, ほか関係各位に厚くお礼申し上げる次第である。

支 部 だ よ り

◎関西支部

- (1) 海外事情講演会(38.1.18, 中央電気倶楽部)
題目と講師

- ① 中南米における海岸および水理学の研究事情
京都大学防災研究所教授・工博 岩垣 雄一
- ② 欧米の諸都市
茨木市施設課長 中沢 一夫

参加者 64名
(2) 会員懇親会 (新春) (38.1.18, 中央電気倶楽部)

参加者 57名 (うち招待関係 18名)
 参加費 300円
(3) 学生のための映画会(第3回) (38.1.19, 大阪大学)

上映映画: 名神高速道路工事, 有峰ダム (第3部, 第4部), なだれ, 城ヶ島大橋, DW工法嵐山橋
 参加者: 104名

(4) 38年土木学会総会 実行委員 打合せ (第4回) (38.11, 土木学会関西支部事務局)

出席者: 矢野委員長, 総務委員 5名, 財務委員 6名, 総会・講演委員 6名, 見学委員 3名。

(5) 第9回幹事会 (38.1.16, 土木学会関西支部事務局)

出席者: 矢野支部長, 米谷幹事長, ほか幹事 7名, 岡田氏。

◎ **西部支部**

(1) 役員会(38.1.10, 福岡天神ビル)
 出席者: 松尾支部長, 村上運営委員長 服部幹事長, ほか運営委員および幹事 11名。

議題: 1) 第2回新材料, 新工法発表会実施の件。2) 研究発表会を2月19日熊

本市大江町建設会館において開催の件。
 3) 支部役員名簿を隔年ごとに作成の件。
(2) 見学会 (38.1.18)

見学場所: 国鉄新博多駅工事, 西鉄高宮架道橋拡幅工事, 博多港およびしゅんせつ埋立ならびにしゅんせつ船見学。
 当日の朝小雨が降った上に関門トンネル内に架線故障があり, 列車が大幅に遅延したために参加中止者もあったが, 寒気をつけて参加の見学者は 143名に達し, 最後まで熱心に見学し, 各機関の懇切な説明と相まって好評裡に会を終ることができた。

編集後記

人造り, 国造りが叫ばれている昨今, われわれ編集部員は毎日, 本造りに励んでいます。2月号の会誌お読みいただけたでしょうか。西村画伯の「構築物に美を求めて」はいかがでしたか。会誌に対する希望・意見等がありましたらぜひ「読者の窓」欄などをご利用下さい。

× × ×

週刊朝日で若戸大橋が建築物として紹介されていましたが, 土木を理解していない多くの人はこれに対して少しも疑問をいだきません。土木工事にたずさわっている多くの会員の方々は機会あるごとに土木工学のPRにつとめ, おおいに土木学会へ入会することをおすすめ下さい。新幹線が 200 km/h のスピードを出せるのも, ハイウェイを超スピードで走れるのも, 橋がかかるのもすべて土木技術者の汗の結晶なのですから……。

× × ×

最近電車の中で「土木学会誌」を開いておられる方を時おり見受けま

す。会誌を親しみやすく, 会員の技術向上の一助となるような内容にしたという委員会の方針が少しずつ浸透して週刊誌を読むような気持ちで会誌を読んでいたできるようになったということは, その現われのひとつではないかと思えます。

× × ×

窓の外に見える聖イグナチオ教会の十字架に雪が化粧をした朝, 北陸路の雪害は死者 100 名を越え, 今なお増える様子, 豪雪の中の会員の皆様に編集部一同, 心からお見舞申し上げます。東京五輪を目標に強化される都内の各工事現場は安川大五郎新会長の就任を祝し, また一段とつち音が高まり, 土木日本の真価を世に問うているようです。

当学会も来年つまりオリンピックの年に創立 50 周年記念事業を迎えます。皆様の御協力を切望いたしま

す。

× × ×

先日, 会員の方々と一緒に新幹線試乗に行きました。400人近い見学者の後から車内に入ると中はラッシュアワーの電車のごとく混み合っており, むんむんと人息れでいっぱい——新幹線がこんなに混むようになったら, その頃はどんなにいろいろのことも変わっているだろうと, ふと思いました。この試乗式は非常に好評で, また企画したいと思います。

× × ×

今月は「第二阪神国道を語る」と題して現地座談会を集録しました。つぎつぎと新しい座談会の企画を目下立案中です。また昨年につづいて「昭和 37 年度水理学研究の現況」を集録しました。こういった記事は水理部門だけではなく, 土木工学のすべての部門から出していただきたいというのが委員会の一一致した意見です。

【事務局編集課一同】

昭和 37 年度土木学会誌編集委員

委員長	八十島 義之助		副委員長	堺 毅		(五十音順)	
委員	伊藤 謙一 後藤 績 中川 稔 南部 繁春	石井 文夫 佐藤 尚徳 中沢 式仁 森 麟	江島 淳 斎藤 俊彦 永田 二生 森本 茂男	大山 忠 千秋 信一 新谷 洋二 渡辺 隆	加藤 信夫 妹尾 隆之 針ヶ谷 佳 委員兼幹事	片山 祐一 奈良部 俊雄 藤井 喬 松本 成男	
地方委員	(北海道支部) 岸 力 岡元 北海	(東北支部) 松本 順一郎 岩崎 敏夫	(中部支部) 酒井 清太郎 増田 重臣	(関西支部) 伊藤 富雄 岡田 清	(中四支部) 長尾 満	(西部支部) 荒木 正夫 高橋 健二	